

平成二十六年 度

(児童指導員科) 入学試験問題

国 語

試験時間 九：三〇～一〇：三〇

(注 意)

- 一 係員の指示があるまで、問題用紙及び解答用紙に触れないで下さい。
- 二 問題は二頁(十四頁)に印刷されています。
- 三 解答用紙に氏名、受験番号及び受験科目名を記入して下さい。
- 四 解答方法は次のとおりです。

例 (一) 埼玉県のある県庁所在地として、正しいのはどれか。

1

- ① 前橋市 ② 甲府市 ③ さいたま市 ④ 横浜市 ⑤ 千葉市

(一) の正答は「③ さいたま市」ですから解答用紙の解答番号1の横に並んでいるマーク欄の中の「③」を鉛筆またはシャープペンシルで「●」のように塗りつぶして下さい。

- 五 机の上には鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、時計(計算機能のついていないものに限る)、受験票以外は置かないで下さい。
- 六 受験票は番号札の手前に置いて下さい。
- 七 マスクを着用している者は、試験官が本人確認する間、マスクを外して下さい。
- 八 ハンカチ、ティッシュペーパーを使用する者は、静かに拳手をして、係員の指示に従って下さい。
- 九 試験中に気分が悪くなったり、トイレへ行きたくなった者は静かに拳手をして、係員の指示に従って下さい。
- 十 試験問題に関する質問は一切受け付けません。
- 十一 途中で退室する者は、解答用紙を机の上に置き、静かに拳手をして、係員の指示に従って退出して下さい。ただし、試験開始後三〇分間及び試験終了一〇分前の退出は認められません。
- 十二 試験終了後、試験問題は持ち帰って結構です。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

アメリカの商務省から出版された『デジタルエコノミー』には、現在アメリカで起こりつつある電子商取引やIT革命が経済全体に及ぼす影響が記されている。そういうものに対して、日本の産業界では現在でも工業での過去の成功体験を持った人々を中心に根強い抵抗感があるようだ。

この「抵抗感」の正体は何であるのか。掘り下げていくと、その原因はどれも日本人の「気質」にあるようである。日本人は歴史的に見ても、直接的に「物」をとらえるのに慣れており、抽象だけの感覚の世界に馴染まない民族なのだろう。ソフトウェアは美態がなかなかとらえにくく、ゆえに現実の世界から⁽⁴⁾ゴウリしているような感覚を持つ。結局は、情報だけの世界で空回りしているような違和感があるのかもしれない。

もともとインターネットやバイオテクノロジーは日本で生まれた技術ではなく、アメリカで生まれ、輸入されてきた技術である。古くは文明開化も同じである。日本は島国であるため、海からの影響を受けざるをえない。

日本の文明の特質について、川勝平太氏らの『海洋史観』が強調されている。島国日本には海洋から文化が入ってくると、それが外に逃げられないので、文化は多層構造をつくる。大陸にある国々は国境が地続きであるから「負ければ逃げられる」という開放性があるが、日本は逃げる場所がない。そして幾重にも上に層が重なる。

社会を表層的に見れば、アメリカと変わらないのであるが、下層の部分も死んではいない。日本の場合、海外の文明や技術を吸収して自国化するプロセスに、独自の方法論があるのだ。

日本人の精神構造の根幹ともいえる多神教、あるいは無神教などが、現在でも精神の下層構造として根づいている。日本人は当たり前のようにクリスマスを祝い、初詣でに向かう。有名な神社の神官が仏教徒である、というケースもまれではあるまい。これは欧米やアラブ諸国のように一神教の人々から見れば信じられないことだ。

そこで、明治時代に日本が開国し、不平等条約を結ぶ時代になって神仏混合（習合）を分離する政策がとられた。海外列強の目に対して日本が近代資本主義国になっていることを見せるためには分業化を示さねばならない。また欧米のキリスト教圏の人々から、神仏混合への共感は見出せるわけがなかったのだろう。

ただ、当時の Ⅰ に目を向ければ、神仏混合に関してもともと何の違和感も持っておらず、逆に、神仏分離に対して「なぜわざわざ分離しなければならないのか」という違和感を持ったに違いない。日本人は伝来の文化や海外の政治的な状況をとりこみ、⁽⁴⁾チクセするの⁽⁴⁾に長けているのだが、既存の概念を捨て去ってゼロにするわけではない。下層構造もどこかで生き続けている。表層的には非常に短期間で適応する一方で、縄文・弥生時代以来の精神的な多層構造はしたたかに保たれている。

現代の日本人の中で、自分の心の奥底に縄文時代の精神構造が潜んでいることを意識している人はあまりいないだろう。だが、日本の状況を観察すると、そう解釈せざるをえないような事象が認められる。日米でバイオテクノロジーの進展に大きな差がついたのも、実はその辺の精神構造にも一因があるのではないかと思われる。

バイオテクノロジーとは、人間の種の起源であるDNAを研究する分野である。それに対して、日本人は潜在的な II を抱えているケースが多い。今まで人類「ホモサピエンス」という種が安定して存続してきた。ところがDNAを操作することでそうした安定が不安定に変わるのではないか、という潜在的な恐怖を持つ。あるいはそうした恐怖に対して敏感な社会が日本であるといえるかもしれない。

そんな恐怖心のルーツを探ると、縄文時代の精神文化に行き当たるのである。最近の研究では縄文人が自然を大事にする精神構造を持っていることが判明してきている。一例としては、遺跡から発見される動物の骨を調べると、雄のものばかりだというのである。つまり、雌や子どもの動物は食さなかつたらしい。

それはおそらく種を残しておくためだつたと思われる。ほかの生物との共存が精神文化の底流として根づいていたわけである。さらに解釈を広げれば、自然の営みをありのままに受け入れ、自然と共存する思想があつたと思われる。そうした縄文の精神が下層となつて現代に引き継がれているがゆえに、バイオテクノロジーのような⁽⁴⁾「センエイ」的な技術を受け入れがたいところがあるのではないだろうか。

バイオテクノロジーの専門家レベルになれば、バイオテクノロジーを知性的にとらえているので違和感が出てこない。専門家はバイオテクノロジーを説明する際に発酵や醸造、品種改良を引きあいにし出してバイオテクノロジーを説明する。しかし、遺伝子治療や遺伝子組み換え食品などは直感的に物事をとらえる女性層からはあまり支持されていない。日本人が発酵や醸造と遺伝子組み換えを同一視できないのは、発酵や醸造が長い歴史を経て定着したものだからであろう。

そういう意味では、下層の精神に抵触するような技術が入つてきた場合、日本人の中でこなれていくのに相当時間がかかるものがあることを認めなければなるまい。古くは漢字がそうであつた。使い慣れる中で抵抗感がなくなり、やがては大和言葉である「ひらがな」が生まれ、漢字かな混じり文として定着し完全にこなれた状態になるには、非常に長い時間が必要であつた。

新しい技術が導入されるときに、下層の精神が顔を出す現象は日本独自のものであろう。こうした多層的な構造は、なぜ日本人に起こるのだろうか。そういう視点で日本の工業化社会を例に考えよう。工業化社会も、多層構造の上に積み重なつた層の一つである。

欧米から文明開化時にもたらされた工業化社会の概念とはアトミズム⁽⁵⁾「分業化」である。アトミズムの考え方は、原子・分子を基本としている。ある複雑な曲線が存在したとしても、それを微小部分（原子・分子のレベル）まで分割していくと最後は個々の差の見分けがつきにくい均質な原子レベルになる。アトミズムは、シンプルで個性がない要素が基本だ。そうしたアトミズムは、事実、明治時代以降の生活観として日本の上層に積もつていった。

明治時代にシステムティックな学校教育が確立されて以来、働く場所は工場やオフィスである、という概念が画一的に常識化されてしまった。思えば、あまりにも大胆な単純化である。近代科学技術、経済社会システムを担う個人は、単純な一つの原子である。個々の原子が独立した動きをして別組織に移動したとしても、経済システム自体には何

の変化も起こらないと考える。(1)

一方で、工業化社会という層が積もる前の日本社会は、そこまでゲンカクな社会ではなかった。農業社会では時間感覚もルーズで、太陽暦の定着前は日が昇ってから落ちるまで働く、というおおざっぱな感覚だった。そうしたおおざっぱな感覚は「III」という格言にも表れている。「III」は奈良時代ぐらいから日本人の心の中に定着してきた。日本人の下層精神は縄文・弥生時代以来のフラクタル的な心理学——複雑なものをありのままに見て、いかなる微小部分も全体を同様に複雑とみなす——という複雑系的感覚でできている。

(2) だから、普通に考えればそうした古来のフラクタル的な精神構造に欧米のアトミズムが導入されれば、社会的な摩擦を起こす。事実、中国をはじめとするほかのアジア諸国はアトミズム＝西洋文明と触れあう中で激烈な摩擦や拒絶反応を示した。それ以上に、既存の価値観を破壊する西洋文明に触れた(押しつけられた)ことで、心理的なトラウマも残した。従来の生活習慣との差にギャップを覚えたのである。(3)

複雑系が台頭した現在ではニュートン力学やユークリッド幾何学のようなアトミズム的、工業化社会的な理論には限界が見え始めている。ただ、アトミズムがそれまで全盛を誇ったのは、それが非常に役立つからだ。ノイズを省いたニュートン力学が物体の運動を説明するのに役に立ったことで、長い間物理学の根本となってきた。

(4) 西洋のアトミズムの成果として、蒸気エンジンを動力にした蒸気機関車の設計も可能だし、西洋医学でつくった薬も効き目がよい。「役に立つ」ことで飛びついたのである。

文明開化時に軍事力を高めるため、日本はドイツからプロシア陸軍⁽⁴⁾ サンプハウの R・W・メッセル少佐を招いた。メッセルは日本人の長所として勤勉な点を挙げた。同時に将軍は日本人の「短所」についても言及している。それは、日本人がキリスト教などの宗教や文化についてほとんど関心を示さず、技術の応用やメリットにばかりこだわる、というものだった。技術の背景については関心がなく、もっぱらその成果に関心がいく。「役に立つ」ということが、技術を取り込むか否かの決定的な判断材料になっているからである。(5)

(石井威望『バイオテクノロジーからの発想』より)

問一 傍線部(ア)～(エ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は ～

(ア) エウリ

- ① ロンリ的な説明をする
- ② リガイ対立が激しい
- ③ 債務をリコウする
- ④ 三年ぶりにキョウリに帰る
- ⑤ リハン者が続いた

(イ) チクセキ

- ① ボウセキ業が発展する
- ② 検体をカイセキする
- ③ マツセキに名を連ねる
- ④ セキネンの恨みを晴らす
- ⑤ 昨日ニエウセキしたカッブル

(ウ) センエイ

- ① 新進キエイの作家
- ② 社会背景をトウエイした作品
- ③ エイサイ教育を施す
- ④ 賛美歌をエイショウする
- ⑤ センエイ的な芸術作品

(エ) ゲンカク

- ① 旧体制のカクシンを図る
- ② まだ十分なカクシンは得られない
- ③ 徐々にトウカクを現わす
- ④ カクリヨウが辞任した
- ⑤ 彼女はリーダーにはチキカクだ

(オ) サンボウ

- ① 流行性カンボウにかかる
- ② ソボウな振る舞いを繰り返す
- ③ 主君をボウサツしてのし上がる
- ④ ボウキョウの念にかられる
- ⑤ 寺のシユクボウに泊まる

問一 空欄Ⅰ～Ⅲに入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

- | | I | II | III |
|---|------|-----|---------|
| ① | 庶民感情 | 危惧 | 一事が万事 |
| ② | 支配階層 | 憧れ | 針小棒大 |
| ③ | 宗教情勢 | 批判 | 大は小を兼ねる |
| ④ | 一般社会 | 劣等感 | 大同小異 |
| ⑤ | 伝統文化 | 警戒 | 千変万化 |

問二 次の文章は、問題文中の(1)～(5)のいずれかの部分に入る。該当する箇所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

美は日本人は、この「役に立つ」ことに対して実に素直に現実的になれる民族なのである。だからこそトラウマを最低限に抑えながら外来の異文明を多層構造の上層に乗せていくことができたのである。

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)
- ⑤ (5)

問四 傍線部A 「社会を表層的に見れば、アメリカと変わらないのであるが、下層の部分も死んでいない」とあるが、下層部分における日本とアメリカの相違点とは何か。次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

- ① アメリカが市民のレベルでまで経済を中心に社会を考えるのに対し、日本人は文化を中心に社会を考えようとする。
- ② 一見、信仰心の薄そうに見える多神教だが、信仰心の総和で捉えたときにアメリカよりもはるかに宗教的に真面目である。
- ③ 異文化の流入に対して、アメリカと違って逃げ場がない分、日本の場合は恐怖感を伴って受け入れられやすいということ。
- ④ 宗教観に代表される日本人の精神的態様の柔軟性がアメリカと異なり、かつ、それが民衆のレベルにまで浸透している。
- ⑤ アメリカ人が物事を抽象的に捉えることから始めるのに対し、日本人は具体的に物事を捉えてから抽象化させるとのこと。

問五 傍線部B 「現代の日本人の中で、自分の心の奥底に縄文時代の精神構造が潜んでいることを意識している人はあまりいないだろう。だが、日本の状況を観察すると、そう解釈せざるをえないような事象が認められる。」とあるが、本文から読み取れる「事象」とは何か。次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

- ① バイオテクノロジーの専門家が、生物との共存を否定して知性的な技術革新を推し進めようとしても、社会の下層部からの強い反対に遭うことで撤回を余儀なくされている。
- ② 自然と共存することを最高の価値観と位置づけるとともに、自然に対して人為的な干渉を及ぼすことを、その程度を問わずに多くの国民が拒絶反応を強く示す。
- ③ 多種多様な動物と持続可能性の高い生活を営むことを是とし、他の生物に対して一方的な操作を加える行為については、歴史的な裏付けがない限り、精神的に抵抗感を強く持つということ。
- ④ 発酵や醸造に対して当初抱かれていた抵抗感が、大和言葉である「ひらがな」を通じて国民に日本語として浸透することによって、ようやく一般に受け入れられるようになった。
- ⑤ 狩猟生活を営む時代においても、雌や子どもを食しなかったように、自然を人間に従属するものと位置づけながらも、より弱者であるものに対しては慈しみの感情をもって接していた。

問六 傍線部C「工業化社会も、多層構造の上に積み重なった層の一つである」とあるが、本文中の表現を用いて工業化社会における多層構造を説明したものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 10

- ① 心理的なトラウマを負ってきたアジア諸国を他山の石として、できる限り無抵抗に工業化社会を導入しようとしてきたこと。
- ② 日本社会の伝統的な文化や社会を維持しながら、欧米的な社会制度を利用してきたこと。
- ③ アジア諸国と協力しながら、西洋文明に対抗できる新しい工業化社会像を形成してきたこと。
- ④ 新しい経済システムを採用するために、日本人の複雑な精神構造を大幅に単純化させてきたこと。
- ⑤ 日本の伝統的な農業社会において、太陽暦を採用することで工業化に対応できる人材を育成しようとしてきたこと。

問七 本文の要旨として妥当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11

- ① IT産業に対して日本人が抱く抵抗感は、縄文時代に端を発する日本人の精神の下層構造に根差しているが、日本人は一方で、「役に立つ」ものを表面的には受け入れる器用さも持ち合わせている。
- ② 明治時代に日本が行った神仏混合を分離する政策は、その性急さゆえに、表面的には短期間で適応しながらも、日本人の既存の概念を捨て去ることができなかった。
- ③ 遺伝子治療や遺伝子組み換え食品に抵抗感を持ちながら、発酵や醸造を受け入れているのは、歴史の有無という差にすぎないものであるが、この歴史の差を埋めるのには相当の時間がかかる。
- ④ アトミズムの考え方は明治時代以降の生活観として日本の上層に積もっており、これが最も顕著にあらわれているのが、学校教育や工業化社会であるが、これは日本の農業社会のあり方と真つ向から反発する。
- ⑤ 日本が中国やほかのアジア諸国と異なり、フラクタル的な精神構造と欧米のアトミズムの摩擦を最小限に抑えられたのは、日本人が勤勉である一方、表面的な技術にのみ関心を持ち続けてきたからである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

伝統的な経済学では、人間は自分の利益だけを考えて行動するという利己的な存在として分析されてきた。自分の利益だけを考えるとという人間像は狭すぎることは間違いはない。しかし、市場競争に直面している場合には、利己的な人間を想定して分析することで、十分に現実を理解することができるのも事実である。ところが、多数の人を相手にするような市場ではなく、雇用関係や比較的少ない相手とのやりとりで、相手の行動と自分の行動がお互いの利益に直接関係するような状況の場合には、利己的な人間を前提にした理論的な予想が、現実をうまく説明しないことが知られている。最後連勝ゲームで、自分にとって大きく不利な提案をしてきた相手に対し、利己的に考えれば受け入れたほうがいいにもかかわらず分配提案を拒否するという行動はその例である。

自分に親切にしてくれる人に対しては、自分も親切にするというのも、伝統的な経済学の考え方から離れるが、多くの人にみられる行動様式だろう。同じ職場のなかでの賃金の分配についても、生産性の差がある程度存在した場合、生産性の差のとおり大きな差をつけて賃金が支払われるよりも、あまり差が小さくないほうを望む人も多いかもしい。もちろん、自分が多いうれしいだろうが、同僚の賃金よりあまりに多すぎても、逆に同僚の賃金よりも少なすぎてもうれしくない人もいるだろう。同僚との間に生産性の差があつて、同僚より低い賃金しかもらえなかつた時は、賃金の額が少ないという不満に加えて、同僚よりも少なかつたという不満が付け加わるのではないだろうか。他人が多くの賃金をもらっていると聞くだけで妬みの感情が生まれて、不幸になってしまう人もいよう。

このように、他人との比較から不満が生まれるというのは、人間が自分のことだけを考えて行動するとみなしてきた伝統的な経済学では考えられていなかったことである。言い換えると、人間には何らかの公平感があり、その公平感から現実が乖離すると不満を持つと言える。

では、人間の公平感生まれつきのものなのだろうか。チューリッヒ大学のフエール教授らは、人間の公平感、何歳頃から発達するのか、それはチンパンジーやマーモセットといったサルとどのように異なるかを実験によって明らかにした。彼らは子どもたちに、お菓子を自分と別の子どもに分ける方法を選ぶ三つの課題を行なわせた。三つの課題はつぎのとおりである。第一は、お菓子を自分とパートナーの相手に、自分も相手も一個ずつか、自分だけが一個とするかを選ばせる(社会性ゲーム)。第二の課題では、被験者は自分も相手も一個ずつか、自分は一個で相手が二個という分配のどちらかを選ばせる(妬みゲーム)。第三の課題では、自分も相手も一個ずつか、自分だけが二個という分配から選ばれる(共有ゲーム)。平等主義をもっている子どもは、どの課題も一個ずつの分配を選ぶことになる。

チンパンジーやマーモセットという動物を使った研究では、平等主義が観察されないことが知られている。チンパンジーもマーモセットも社会性ゲームでは平等を選ばない。妬みゲームでは、チンパンジーは平等にしようとする嫌がり、マーモセットは自分から不平等にしようとする。

フエール教授らの研究によれば、人間の子どもも三〜四歳であれば多くは利己的に行

動すると報告されている。五、六歳になると、共有ゲームで平等を選ぶ子どもは二、三パーセントに増えるが、まだ少数派である。しかし、七、八歳になると共有ゲームで四五パーセントの子どもが平等主義を選ぶようになる。年齢だけではなく、兄弟姉妹の有無も平等主義的価値観に影響するとのことだ。一人っ子は、兄弟がいる子どもよりも共有ゲームでより平等主義的な行動をする。また、兄弟がいる子どものなかでは、末っ子が共有ゲームで平等主義を一番嫌うことが示されている。

つまり、利己主義か平等主義かという価値観は、教育や家庭環境によって形成されていくことがこの実験で明らかにされているのだ。私たちが平等主義的な価値観をもっているとすれば、それは **I** であって、**II** ではないのである。社会全体が平等主義的な価値観をもっているなかで、自分だけが利己的な価値観を持って行動すると、社会的には成功することはできないだろう。今までは、経済格差を解消するためには、学校教育における知的能力の訓練が有効だと考えられてきた。しかし、ここで紹介したような非認知能力の発達が経済格差に大きな影響を与えるのであれば、そこに配慮した就学前からの教育が重要だということになるだろう。

(大竹 文雄『競争と公平感』より)

問一 傍線部A「相手の行動と自分の行動がお互いの利益に直接関係するような状況の場合には、利己的な人間を前提にした理論的な予想が、現実をうまく説明できないことが知られている」とあるが、これを説明したのものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12

- ① 自分自身の行動によって不利益を受けた他者の自分に対するマイナスの反応は、その程度が未知数であるがゆえに、自分の利益を守るためには、マイナスの反応を最大限に見積もる傾向があるということ。
- ② 自分が他者に対して親切にすればするほど、相手がそれ以上の親切を返してくれると潜在的に期待するため、完全に公平な分配結果を求めるよりは、自分自身が一見やや不利に見える分配結果を求める傾向にあること。
- ③ 生産性の差は会社の業績に対して過剰に反映される傾向を持つため、賃金の分配を求める側は会社の業績を基準に分配を求めてもよいにも関わらず、それをせざるに生産性の差を基準に分配を求めるようになること。
- ④ 人間の意識には、他者との関係で適切なバランスを求めるものがあり、妥当性を担保できる一定の範囲を逸脱すると、自分自身が利益を受ける側か否かに関わらず、不満を抱くようになること。
- ⑤ 市場競争を経た結果、利益を得られなかった他者が利益を得た自分に妬みを持つことが明らかになったため、真に自分のことだけを考えて行動する人間が、時代とともに減少してきたということ。

問二 傍線部B「三つの課題を行わせた」とあるが、課題の内容と実験結果の関係性を説明したものとして、文中から読み取れる最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13

- ① マーモセットに共有ゲームを行わせた場合、自分たちが二個という分配を選んだものと、自分も相手も一個ずつという分配を選んだものの数に、有意差は見られなかった。
- ② 三～四歳の人間の子どもで社会性ゲームにおいて自分も相手もお菓子を一個ずつとする選択をとったものは、五～六歳の時点においてもみな、同様の選択をとっている。
- ③ マーモセットに妬みゲームを行わせた場合、実験が成立せず、チンパンジーに同様のゲームを行った場合にも、両者に均等にお菓子を与えることを是とするものは見られなかった。
- ④ 末っ子である七～八歳の子どもと、五～六歳の一人っ子の子どもが三つの課題を行った場合、平等主義的な選択を取る可能性が高いのは五～六歳の一人っ子の子どもである。
- ⑤ 五～六歳の子どもが二個のお菓子を分けるゲームを行った場合、相手にお菓子を渡すという選択をとった子どもの方が、そうでない選択をとった子どもよりも多い。

問三 空欄部Ⅰ・Ⅱに入る語の組合せとして、もっとも適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14

- ① I 家庭や学校での教育の成果
II 社会に存する経済格差を実感した結果
- ② I 家庭や学校での教育の成果
II 人間が生まれながらにもっている価値観
- ③ I 人間が生まれながらにもっている価値観
II 家庭や学校での教育の成果
- ④ I 人間が生まれながらにもっている価値観
II 社会に存する経済格差を実感した結果
- ⑤ I 社会に存する経済格差を実感した結果
II 家庭や学校での教育の成果

問四 本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15

- ① 人間を利己的なものとして前提付ける伝統的な経済学は、扱っている人間像が狭すぎるという倫理的な批判を浴びたことにより、現在では積極的には採用されていない考え方となっている。
- ② 生産性の異なる同僚の間で低い賃金を与えられた方が抱く不満は、賃金の額が少ないという絶対的な基準に基づくものではなく、他者との比較で少ないという相対的な基準に基づくものである。
- ③ フェール教授が行った公平感に関する実験に基づけば、平等主義をもつ子どもは三つの課題全てでお菓子を一個ずつ分配する選択を取り、利己主義的な子どもは、三つの課題全てでお菓子を一個ずつ分配しないもう一つの選択を取る。
- ④ 兄弟がいる子どものうち、末っ子以外の子どもが共有ゲームで平等分配を好む理由は、成長の過程で末っ子に多く分配される経験があるため、自分が少ない分配しか得られなかった不満を強く持っているからである。
- ⑤ 経済格差を解消するためには、学校教育を通じて知的能力を高めるだけでは不足があり、就学前の教育を通じた公平感や社会性などの能力の醸成が必要と考えられる。

第三問 次の問に答えよ。

問一 次の四字熟語のなかで、正しい漢字の使い方をしているものはどれか。解答番号は

- ① 我天引水
- ② 時代錯悟
- ③ 物見海山
- ④ 用意周倒
- ⑤ 晴耕雨読

問二 次のことばの意味として、最も適当なものはどれか。解答番号は

「業をにやして」

- ① こらえきれなくなつて
- ② しかたがないので
- ③ おどろいて
- ④ 切羽詰つてしまつて
- ⑤ かわいそうになつて

問三 次の漢字の用法で、正しいものはどれか。解答番号は

- ① 役割を担う
- ② 法律制定に供つて
- ③ 徹底的にやるべきだ
- ④ 成績が良くてほめられた
- ⑤ 行政改革の一貫

問四 次の下線部の漢字の読み方が正しいものはどれか。解答番号は

- ① 甲電 (きゆうでん) を打つ
- ② 恩賜 (おんけい) 公園
- ③ 凋落 (しゅうらく) の運命をたどる
- ④ 約束を反故 (ぼこ) にする
- ⑤ 大臣を更迭 (こうそう) する

問五 次の下線部の漢字の読み方が正しいものはどれか。解答番号は 20

- ① 結納(すいとう)をかわす
- ② 権威が失墜(じつすい)した
- ③ 知己(ちき)にめぐり合う
- ④ 交通ルールを遵守(そんしゆ)する
- ⑤ 風邪をひいて悪寒(あくかん)がする

問六 次の慣用句と、その意味の組み合わせが正しいものはどれか。解答番号は 21

- ① 口がすつばくなる：同じことを繰り返して言うさま
- ② 口にのぼる：うまいことを言われて、人にだまされること
- ③ 口が堅い：言葉数が少なく、あまりしゃべらないこと
- ④ 口に合う：おいしいものばかり食べて、質素なものを食べないこと
- ⑤ 口を利く：なんとなく満たされない気持ちがすること

問七 次の四字熟語の中で、□に漢数字を用いないものはどれか。解答番号は 22

- ① 一期□会
- ② □面楚歌
- ③ □里霧中
- ④ 馬耳□風
- ⑤ □律背反

国語（手話通訳／児童指導員）正解一覧

問 題			解答欄	問 題			解答欄	
第1問	問1-(ア)	1	5	第3問	問1	16	5	
	-(イ)	2	4			問2	17	1
	-(ウ)	3	1			問3	18	1
	-(エ)	4	5			問4	19	4
	-(オ)	5	3			問5	20	3
	問2	6	1			問6	21	1
	問3	7	4			問7	22	4
	問4	8	4					
	問5	9	3					
	問6	10	2					
	問7	11	1					
第2問	問1	12	4					
	問2	13	3					
	問3	14	2					
	問4	15	5					